

学術情報

第17回 東京女子医大漢方医学研究会

日 時：昭和62年12月3日（木）午後5時30分～7時

場 所：東京女子医科大学 中央校舎1階会議室

演 題

1. 老人の不定愁訴に対する漢方薬の効果

（消化器病センター内科）佐藤 秀一，秋本満寿美，長廻 紘
久満 董樹，小幡 裕
（第2病院内科）佐藤 弘

2. 放射線治療時の各種自覚症状および血液像に対する十全大補湯の効果

—放射線治療 TJ-48研究会での検討—

（放射線科）大川 智彦

3. 中国における気功医療の現状

（神経精神科）田中 朱美

4. 現代中国漢方処方の実際

—それぞれの生薬の役割を中心に—

（北京中医学院生物化学副教授）錢 家駿先生

老人の不定愁訴に対して漢方薬が著効を示した2症例

（消化器内科）

佐藤 秀一・久満 董樹・小幡 裕
（第2病院 内科）佐藤 弘

症例1. 69歳，女性。腹部膨満感，腹痛，食欲低下を主訴に当科入院。入院時，下腹部はやや膨隆し腸ぜん動は低下，血液検査では軽度の貧血のみ，注腸造影検査等により巨大結腸症と診断，原因は不明，入院後より補液およびパンテノール，ジノプロスト等を投与したが症状の改善は認められず，大建中湯を投与したところ，症状は著明に改善した。

症例2. 80歳，女性。胃液逆流感，舌の異和感，食欲低下を主訴に当科入院。入院時，現症および検査では異常なし，原因は不明，上記症状に対して，柴胡桂枝乾姜湯を投与したところ，症状は著明に改善した。

放射線治療時の各種自覚症状および血液像に対する十全大補湯の効果—放射線治療 TJ-48研究会での検討—

（放射線科）大川 智彦・喜多みどり

放射線治療に伴う各種愁訴および血液像の変化に対するツムラ十全大補湯の効果を非投与群を対照とした

多施設コントロール試験を実施したのでその効果について報告する。

<対象と方法>

胸部，腹部照射を施行した癌患者（主に乳癌，子宮癌）で照射野が10cm×10cm前後で総線量が50～60Gyの者を対象とし，照射開始より照射終了時まで，十全大補湯を1日7.5g分3で食前に投与した，投与，非投与の症例の割付は封筒法により行なった。投与群は43例，非投与群は40例であった。

観察項目としては，自覚症状（食欲不振，疲労倦怠感，悪心・嘔吐，下痢など）と一般血液検査，血液生化学検査を一週毎に実施した。

<結果>

① 食欲不振，全身倦怠感，悪心・嘔吐，下痢について十全大補湯投与群で症状の発現が軽度であった。その傾向は腹部照射症例で顕著であった。

② 白血球数，血液像については，十全大補湯投与群，非投与群間に差は認められなかった。

③ 十全大補湯による副作用は3例（4.7%）に認められたが，いずれも軽度であった。

以上より十全大補湯は放射線治療による各種愁訴に有用性のある薬剤と考えられた。